

# 新技術 解説

## 新害虫ネギネクロバネキノコバエ *Bradysia odoriphaga* と混発するクロバネキノコバエ類の現場における簡易な見分け方

埼玉県農業技術研究センター 小俣 良介・渡辺 俊朗・岩瀬 亮三郎  
静岡大学 石原 由紀・田上 陽介

### はじめに

ネギネクロバネキノコバエ *Bradysia odoriphaga* Yang & Zhang (SUEYOSHI and YOSHIMATSU, 2019) (以下、ネギネ) は、多数の幼虫がネギの茎盤や葉鞘部を加害したり、少数の幼虫がニンジン根部を加害して黒変加害痕を生じさせたりする害虫 (小俣, 2017) で、従来の腐植食のキノコバエ類とは様相が異なる被害をもたらす。ネギでは畑の中心から大きな円形状に生育不良となる領域が広がり、その後、その部分が枯死となる被害や収穫期の大部分のニンジンが黒変する甚大な被害が埼玉県では発生した。本種は、埼玉県北部において 2014 年 10 月の秋冬ネギ、2015 年 5 月の春ニンジンで被害が確認され、我が国で初めて確認されたクロバネキノコバエ類の 1 種であるとして、2016 年 6 月 28 日に埼玉県は、特殊報 (埼玉県病害虫防除所, 2016) を発表し注意を喚起してきた。さらに隣県の群馬県では 2016 年 12 月以降県東部の秋冬ネギ (群馬県病害虫防除所, 2017)、2018 年 11 月には県中部のニラ (群馬県病害虫防除所, 2019) においてもネギネの被害が確認され、それぞれ特殊報を発表している。

現在、ネギネの生息範囲の封じ込めを目指し、埼玉県および群馬県でその発生範囲の調査を実施している。圃場でサンプリングした一見して健全に見えるネギを茎盤から約 10 cm 程度に切ったものでも、植物組織培養プラントポット (72 × 72 × 200 mm) により 3~4 週間室内で培養すると、ネギネのほかにもチバクロバネキノコバエ *Bradysia impatiens* (= *Bradysia agrestis* または *Bradysia difformis*) (以下、チバ)、ジャガイモクロバネキノコバエ

*Pnyxia scabiei* (以下、ジャガ) の発生 (小俣ら, 未発表) が確認される。また、日本各地で実施されたネギネの発生警戒調査から、京都ではチバによりネギ畑において欠株が所々に発生する被害 (京都府病害虫防除所, 2017) が確認された<sup>注1)</sup>。また、群馬県東部や西部のネギ産地においてジャガの発生 (群馬県病害虫防除所, 2018) が確認されている。埼玉県、群馬県におけるチバ、ジャガについては、これまでのところネギとニンジンの栽培上、大きな問題となる被害は報告・確認されていない。このように、甚大な被害を発生させるネギネとは異なる種類のクロバネキノコバエ類も同所的に生息していることから、ネギネの発生警戒・防除対策を進めるうえで、採集されたクロバネキノコバエ類の種の判別が必要である。

また、ネギの販売形態の一つに泥ネギがあり、これはネギを掘り起こし、土の着いた葉鞘部を剥きとらず、茎盤をつけたまま束ねて出荷する形態で、家庭で購入後、庭先などで土に埋めたり植え直したりすることにより保存できるため人気がある。しかし、ネギネが寄生した泥ネギを販売することで、ネギネの発生地外へ虫を持ち込み、その生息地域を拡大してしまう恐れがある。このため埼玉県では、泥ネギを収穫する圃場にネギネが発生しているか確認するため、水浸漬法 (農研機構, 2018) によりチェックをしているが、幼虫によるクロバネキノコバエの種の判別は困難であるため、この方法ではクロバネキノコバエ類が寄生していないかのチェックにとどまる。クロバネキノコバエ類幼虫が検出された場合は泥ネギの出荷を自粛するよう生産者に対して指導を行っているが、検出された幼虫を見分けて欲しいという現場の声が高まっていた。

Identification of Fungus Gnats (Diptera : Sciaridae), Co-occurring with *Bradysia odoriphaga*, a New Sciarid Pest of Welsh Onion in Agricultural Fields. By Ryosuke OMATA, Tosiaki WATANABE, Ryozauro IWASE, Yuki ISHIHARA and Yohsuke TAGAMI

(キーワード: ネギネクロバネキノコバエ, クロバネキノコバエ類, 混発, 見分け方, ネギ, ニンジン, チバクロバネキノコバエ, ジャガイモクロバネキノコバエ)

<sup>注1)</sup> 笹川 (2017) は、京都府のネギで確認された種をチビクロバネキノコバエ *Bradysia agrestis* (以下、チビ) と同定した。しかし、チビとチバは外部形態で区別がつかないため (SUEYOSHI and YOSHIMATSU, 2019)、本稿ではチビとチバを同種として扱う。